

「むかし 粕江で」 むいから民家園事業

2024年10月20日(日)午前10時から、いささか寒い中で当初予定の屋外から屋内に変更して始まりました。

最初は集まりが悪かったのですが、紙芝居が始まる頃には結構集まり、観客大人 17~18 名、子ども 7~8名、主催者 9 名に教育委員会 4 名合計で 37~名ほどでした。



司会の佐久間均さん

最初は歌とお話で、大熊啓さんが「里の秋」歌いました。そして、静かに語り始めました。この歌は戦後、各地に残されていた兵隊を港で迎えるためにつくられたのですが、実は、詩は1941年の真珠湾攻撃直後に、それを讃えて



「里の秋」を歌い、その歌の背景を語る

作詞され、その4番は「大きくなったら兵隊になり、お国を守る」という趣旨でした。戦後に3番の歌詞を変え、4番は捨てて、歌われるようになったそうです。

本番の紙芝居のはじまり。4人の個性ある読み手により、最初は楽しく、次第に緊張し、最後は「明るい未来を目指して」と元気よく、30分はあっという間に過ぎました。



戦争体験等を求められ方は、戦中のお話として「当時1歳前後だったが、空襲警報が鳴ると防空頭巾をかぶって防空壕に入るが、その防空頭巾に手がかかると烈火のごとく泣き出し、なかなか泣き止まなかった」と、のちに親から聞いたそうです。きっと、防空壕が怖かったのですね。

お楽しみコーナー、何が出てくると思ったら、民家園の庭に実を付けている果物から始まり、好きな果物をあげ、その名前を身体の部位に当てはめ、リラックス体操！最後はみんな食べて、おしまい！！

「狛江むかしね」(狛江むかしの会作成)から「正太とキツネと巡り地蔵」では泉龍寺のご本尊「巡り地蔵」のお厨子を背負った「目もと涼しき女の人」も登場しました。



絵本「3匹のかわいいオオカミ」。3匹の子豚！ではありません。オオカミが頑丈な家を建てると、大きなとんでもなく悪い豚がそれを壊す。電気ドリルやダイナマイトで！考えて、やり方を変え、花の家を作ります。大きな豚は大きく息を吸い込むと…。ということで仲良く暮らすことになりました、という平和な社会をどう作るのか暗示させる絵本でした。

三味線の音にのって小話！落語の始まるときに、チヨイっと話されるものだそうです。

1 軒屋 「雨が漏らないかな～」「や～ね！」
お母さんと子どもが歩いていました。「見てみて、鳩が何か落としたわよ！」「ふ～ん！」
もうそれから笑いっぱなしの時間でした。



「たきび」もまた、いわくつきの詩なのですね。1941年12月に発表されましたが、煙が出れば攻撃目標になる、落ち葉と言えども貴重な資源という訳で、禁止！歌われるのは戦後になってからだそうです。最近では都会では、「たきび」は禁止ですね。ギターとコカリナの伴奏で、来る冬に負けないように「ふるさと」とあわせて元気よくみんなで歌いました。

来場者の感想も好評で、「バラエティに富み、楽しかった」「紙芝居、心に響いた」「学校で上演して欲しい」「演目の効果をあげる工夫が見られた」「全体を通して平和を望むトーンがあり、見応え・聴き応えあった」とのご意見をいただきました。ありがとうございました。主催側の反省も多く、特に対象とした小・中学生の来場者を増やす工夫が課題となりました。

